

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	上田 裕司
最終学歴	学 位	専門分野
兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了	修士	学校教育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

校訓である「真面目」を念頭に置き、教育活動を通じて学生に浸透させる。

【目標】

建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を基盤に、人間の健康に関わる諸問題、また、昨今の激変する学校現場に求められる教員を一人でも多く養成する。

【方針】

教職課程科目の指導を通じて近年の学校運営に関連する事項を確認する。

【計画（方法）】

- ・教職科目である「保健体育科教育法Ⅱ」の講義では、中学校及び高等学校における授業づくりに関連する「学習指導案」「教材・教具」の作成が必須であること。また、指導案作成から模擬授業に発展させ、その活動を通じて保健授業の指導の在り方・考え方の理解を目指す。上記に関連して「教育実習研究」の授業においても良好な態度で実習に臨めるように、筆者が経験してきた学校現場の状況を反映させながら、教師に求められる資質・能力の理解を図る。同時に、実習中における研究授業実施の際に作成する「学習指導案細案」の作成方法の（「教材観・生徒観・指導観」・「単元の評価計画と評価規準」など）理解を図る。
- ・「生徒指導論」と「特別活動研究」においては、私の学校現場での経験に基づき、様々な事例を基に時代に適う「生徒指導の在り方」を探究する。
- ・「特別活動研究」においては新学習指導要領の内容を踏まえ、演習などを用いて実際に学級活動の運営方法を学ばせる。
- ・「基礎演習」においては、「個」の個性の伸長を図るために、学生が提出したレポートの添削と必要に応じて個人面談を施す。
- ・「総合演習」では、「オンリーワンを一人にひとつ」をコンセプトとして健康教育プログラムを用いながら、自尊感情（セルフエスティーム）の構築を目指し、そのことがライフスキルの向上に繋がることを学ばせる。

【担当科目】

（前期）

スポーツ実技（球技）、基礎演習Ⅰ、教育実習Ⅰ（中・高）、
教育実習事前及び事後の指導（中・高）、人間健康学、生徒指導論（中・高）、総合演習Ⅰ

（後期）

インターンシップB、スポーツ実技（球技）、学校保健、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、
特別活動の指導法（中・高）、保健体育教育法Ⅱ

○教育方法の実践

担当科目のほとんどが教職関連の科目であることから，少人数での授業形態を生かし学生個々の課題解決に向けた十分な取り組みが可能になるなど良質の授業提供に繋げることができた。

○作成した教科書・教材

「保健体育教育法Ⅱ」「生徒指導論」「学校保健」などにおいては，各回毎のテキストの作成及びテキストに準拠したスライドの作成を行った。

○自己評価

教育方法の実践，作成した教科書・教材などについては，振り返り学習が容易にできるように作成の段階で工夫を凝らしている。このため学生からも好評を得ることができた。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

学校健康教育に関わる「薬物乱用防止教育の在り方と考え方」の考察

○目標・計画

【目標】

当研究は 2018 年から進めてきた研究の延長線上にあり，筆者の先行研究である中学校教員の調査結果に基づき再度質問紙を作成し，上述の研究テーマにおける大学生の意識の実態と薬物乱用防止教育のニーズを明らかにしようとするものである。

【計画】

解析は終了しており 2024 年のできるだけ早い時期に投稿する。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・榎本智司，石鍋浩，上田裕司他 「中学校全面実施につながる移行措置実践ガイド」 第 3 章：新学習指導要領を生かした保健体育科〈保健〉の授業例，pp.82 - 83. 教育開発研究所 2018 年。

（学術論文）

- ・上田裕司「学校保健計画に位置付けた薬物乱用防止教育の在り方の検討 - 中学校教員による質問紙調査の分析結果から - 東邦学誌 第 49 巻 第 2 号：pp41-58 2020 年。
- ・上田裕司，西岡伸紀。「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識の実態把握及び関連要因」兵庫教育大学と大学院同窓会との共同論文集 第 7 号 pp23-29 2017 年。
- ・鈴木千春，上田裕司，香田由美，永田智子，鬼頭英明。「中学校保健分野の医薬品の学習におけるデジタル絵本教材活用の効果」兵庫教育大学学校教育学研究 第 29 巻 pp51-58. 2016 年（査読あり）。

（学会発表）

- ・上田裕司「大学生を対象に薬物乱用防止教育に関する授業実践研究」2023. 鎌倉女子大学 第 8 回 保健科教育講演集 p17.
- ・上田裕司，尚爾華。「薬物乱用防止教育に対する中学校教員の意識と関連要因」- 質問紙調査の分析結果から - 2019. 東海学園大学 第 62 回 東海学校保健学会講演集 p31.
- ・尚爾華，上田裕司。「中国都市部大学生の身長，体重，体格指数及び理想体型に関する調査」2019.

東海学園大学 第 62 回 東海学校保健学会講演集 p43.

- ・阿倍健太郎, 谷川尚己, 山田淳子, 上田裕司. 「中学 3 年生における人型ロボット (Pepper) を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.
- ・谷川尚己, 阿倍健太郎, 上島智, 山田淳子, 上田裕司. 「大学教員と学校薬剤師が連携した小学校での保健学習」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.
- ・山田淳子, 阿倍健太郎, 谷川尚己, 上田裕司. 「小学 6 年生における人型ロボット (Pepper) を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.
- ・上田裕司, 西岡伸紀, 鬼頭英明. 「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識」2017. 和歌山県立医科大学 第 64 回 近畿学校保健学会 講演集.

(特許)

(その他)

特になし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

特になし

○所属学会

日本学校保健学会, 日本保健科教育学会, 東海学校保健学会

○自己評価

2023 年度は, 2021 年度から進めてきた研究 (薬物乱用防止教育の在り方) の研究の成果を日本保健科教育学会にて発表を行った.

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

所属する委員会 (中高教職支援委員会・教職支援センター運営委員会) において求められる役割を果たす.

【計画】

所属する委員会 (中高教職支援委員会・教職支援センター運営委員会) が円滑に運営できるように自己の役割を果たす.

○学内委員等

・教職支援センター運営委員会 ・中高教職部会

○自己評価

教職支援センター運営委員会・中高教職部会の一員として職務を果たすことができた.

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

所属する学会及び教育関連団体と連携して学校教育における保健科教育及び学校健康教育の推進を行う.

【計画】

- ・愛知県教育委員会保健体育課からの要請を受け、2023年度（令和5年度）の学校保健講座の研修講師として「学校教育における今後の薬物乱用防止教育の在り方と進め方」と題して8月2日に愛知県内の約100名の教員（小・中・高・養護教諭）を対象に講義を行う予定である。
- ・薬物乱用防止指導員（厚労省）として愛知県においても薬物乱用防止啓発活動を行う。

○学会活動等

- ・2023年12月7日：日本保健科教育学会において薬物乱用防止教育の在り方に関する研究発表を行った。

○地域連携・社会貢献等

- ・愛知県教育委員会保健体育課からの要請を受け、2023年度（令和5年度）の学校保健講座の研修講師として「学校教育における今後の薬物乱用防止教育の在り方と進め方」と題して8月2日に愛知県内の約100名の教員（小・中・高・養護教諭）を対象に講義を行った。

○自己評価

- ・薬物乱用防止教育の在り方に関する研究発表（日本保健科教育学会）において、新たな課題を見つけることができ、今後の研究の方向性の示唆が得られた。
- ・愛知県内の小中高の教員を対象とした薬物乱用防止教育の進め方・考え方に関する講義を行い、受講者からも好評を得ることができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

特になし

VI 総括

- ・担当する授業のほとんどが教職科目であるため、学生には学校現場で行われている授業実践がイメージしやすいように、教材研究と教材開発に注力した。
- ・研究活動では、発表できるまでにやや時間を要したが学会の場で新たな知見を発表できた。
- ・今年度で、本学における教育研究活動が退職のため終わる。在任6年間においては、自己満足ではあるが就任当初に計画していた以上の様々な事項が達成できたと考える。

以 上